

人間とはなにか。

人間とは、人間とはなにかをつねに決定する存在だ。

人間とは、ガス室を発明した存在だ。

しかし同時に、ガス室に入っても毅然として

祈りのことばを口にする存在でもあるのだ。

— ヴィクトール・E・フランクル『夜と霧』  
(原題 *Man's Search for Meaning*) より

# 人間とはなにか？

—— 研究者たちが描く人間像 ——

2024年10月23日(水)

【第一部】 話題提供 14:00 - 15:45

【第二部】 自由討論 16:00 - 17:00

於 茨城大学 水戸キャンパス

図書館1階ラーニングcommons

オンライン (Zoom) ※オンラインは登録者のみ

参加ご希望の方は  
事前登録を  
お願いいたします。



主催：人間とはなにかを分野横断的に考える若手の会

共催：大学×国研×企業連携によるトップランナー育成プログラム (TRiSTARプログラム)

協力：公益財団法人中辻創智社

【お問合せ先】 担当 佐々木 E-mail: ningentoha@outlook.jp

 TRiSTAR

# 人間とはなにか？ ——この問いは、意識するにせよ、しないにせよ、すべての研究者が抱く根源的な問いである。

「人間とはなにか」とは、多くの研究者をつなぐ普遍的な問いであろう。フィールドや学問分野の違いこそあれ、人間と一切かわりのない事象を対象とする研究者は少ないのではないだろうか。人新世と言われるほどに、世界に対して絶大な影響力を持つにいたった人間。人間のいない地域や、動植物などの人間以外の存在を対象にしたとしても、人間の営みの関与を一切除外して考えることは難しい。また、人類が登場する以前の時代や宇宙空間を対象にした分野であったとしても、観測し、推論するのは人間である。様々な研究課題を統合する、より抽象度の高い問いのひとつが「人間とはなにか」であろう。当然ながら、これは決して新しい問いではない。むしろ、膨大な蓄積のある問いである。本フォーラムでは、こうした蓄積との接続を見据えつつも、まずは現在、各分野の一線で活躍する研究者が、この問いにどのような解答を出すのかを共有するところに主眼を置きたい。自分にはない発想からの人間観を一望し、一人の研究者としてそれらを自身の内部に取り込むとき、いったいどんな新しい人間観を提出することができるのか。その先には、近代科学が措定する人間観の相対化も展望しうる。自然科学・社会科学・人文学の各分野で体系化された知の技法をもとに、各研究者は人間をどのように理解しているのかを共有することを通して、人間なる存在に対する複眼的な理解の土壌を醸成することを本フォーラムでは目指したい。

オーガナイザー 井上 淳生  
秋山 肇

## 話題提供者



**井上 淳生** INOUE, Atsuki

茨城大学人文社会科学野 講師。「人間とはなにかを分野横断的に考える若手の会」メンバー。専門は文化人類学、舞踊学。社交ダンスや結婚支援、地域づくりが研究フィールド。これらに共通する人と人との出会いに関心を抱いている。

**秋山 肇** AKIYAMA, Hajime

筑波大学人文社会系 助教。「人間とはなにかを分野横断的に考える若手の会」メンバー。専門は平和研究、憲法、国際法、国際機構論。無国籍、ポスト・コロナ学、ポスト・アントロポセン、AIと社会などに関心を抱いている。



**熊谷 真彦** KUMAGAI, Masahiko

農業・食品産業技術総合研究機構 高度分析研究センター 主任研究員。専門はゲノム生物学、自然人類学。農作物のゲノム情報の解析や社会実装に取り組んでいる。古代の遺物DNAの分析から、農耕史やヒトの食生活の研究も行っている。

**秋元 文** AKIMOTO, Aya

お茶の水女子大学 共創工学部人間環境工学科 准教授。専門は生体材料学、高分子材料、ハイドロゲル、細胞外マトリックス、生体接着。物質科学に基づき「生命とは何か」を探究している。



**松田 壮一郎** MATSUDA, Soichiro

筑波大学人間系 助教。専門は行動デザイン学、応用行動分析学、自閉スペクトラム症。人一人インタラクションのデザインを通じて、誰もが生きやすいミライを目指している。

**司会 佐々木 満実** SASAKI, Mami

茨城大学 URA。専門は中国古代史。「人間とはなにかを分野横断的に考える若手の会」メンバーでもあり、人文系出身URAとして研究支援の在り方を模索している。

